



編集・発行
 日蓮宗 能勢妙見山
 広報部
 〒563-0132
 大阪府豊能郡能勢町野間中
 電話 072-739-0329
 FAX 072-739-2883

盂蘭盆会施餓鬼法要

8月22日(木) 午後1時 於北辰閣(寺務所) 2階ご宝前
 お盆にあたり、ご先祖並びに有縁の靈位に塔婆供養します
 ご希望の方は寺務所までお申し込み下さい (御志納料五千元より)

【8月の主な行事】

- ★写経会 11日(日) 11時
- ☆山の日登山靴安全祈願 11日(日) 11時30分
安全祈願並びに供養 13時30分
- ★清掃の日 15日(木) 11時
- ★月例祈願法要 15日(木) 13時
- ☆盂蘭盆会施餓鬼法要 22日(木) 13時
お盆にあたり塔婆を立ててご先祖供養します
- ★鷗様月例祭 22日(木) 15時
火伏せ守りの黒札を授与します

【9月の行事予定】

- ☆八朔祭祈禱 1日(日) 9時〜16時
御祈禱お申込の方には「開運八朔田之実守」授与
- ★清掃の日 15日(日) 11時
- ★月例祈願法要 15日(日) 13時
- ★鷗様月例祭 22日(日) 15時

◎ご祈祷・ご回向等のお申込はFAX・メールでも受け付けています

◎送迎バス奉賛会会員並びに、ご祈祷ご回向のためにご参拝のご信者様の便宜を図り、能勢電鉄妙見口駅から山上までの送迎車を用意しています
 利用ご希望の方は、必ず2日前までに電話で連絡を願います 但しご希望に添えないこともあります

心の声を聴く

桑木信弘

この季節になると土日の妙見山は、ハイキングなど遠方からもご家族で訪れる方が多くなります。

汗を拭きながら本殿まで参られ涼しげな風にお香の薫り漂う中、お寺の周囲に広がる静かで緑豊かな景色にぼんやりと家族で見入っ

ていらつしゃいます。この辺りの余分なものが何も無い自然な環境が、都会に暮す人々にとっては非

日常の空間である様です。大阪市内で暮らし、ふとしたきっかけで妙見山に来たそうです。最近ではたびたび妙見山へ来られ開運殿にてご祈祷を受けられ、お経を唱えさせて頂く様にな

ったご信者さま。都会には人も音も、沢山の便利さもあります。予定の詰まった一日を、めくるめく時の流れに知らず知ら

ずうつ向きながら過ぎて疲れていく身と心。「ここへ来ると自然と心を

通わせられて、どこか懐かしい満ち足りた気持ちになるんです。」

青く拡がる空に、白い雲がゆつたりと動いていく。風の音、木々の枝と葉がカサカサと鳴る音、鳥たちや虫の声を耳で、そして肌で感じ聴き入るひと時。

尽きぬ悩みが消える事はない、でも包み込むような自然との触れ合いで、心の扉がゆつたりと開いてあるがままに自分を受け入れるゆとりが出来るのだそうです。

「聴く」とは、耳に十四の心を持つことだと言われ

ております。相手を説き伏せるのでなく、心から耳を傾け聴いてあげると、その人の深い心の声を聴く事が出来ます。

日蓮聖人は法華初心成仏鈔で、「籠の中の鳥鳴けば

空飛ぶ鳥の集まりが如し、空飛ぶ鳥の集まれば籠の中の鳥も出んとするが如し、口に妙法を呼び奉れば我が身の仏性もあらわれ給う」と仰られています。

ご先祖様がお帰りになられ、どこか懐かしさも感じられるお盆の季節、南無妙法蓮華経とお唱えして自分の心と向き合い、ご先祖様の心の声に耳を傾け、心を通わせる為、妙見山へ参られてはいかがでしょうか。

登山靴安全祈願・供養

8月11日は山の日。登山で命を預けた登山靴や大切な用具。古くなったと捨てるのは心苦しいという方のため感謝の気持ちをこめて供養し、また新しい登山靴と用具へお経を上げて安全祈願をします。
11時30分 登山靴安全祈願
13時30分 安全祈願・供養
午前の部は新しい靴や用具にお経を上げて登山の安全祈願のみ。午後の部は、安全祈願並びに供養もします。

《法華経に学ぶ現代》

純智庵

必ず當に

嫌になります

この季節

艸を取って

抜いても抜いても

生える草

道場に坐して

だけどどちらも必死です

欲と迷いも

諸の魔軍を

これに似て

心の大地に根を張って

破すべし

人の生き方邪魔します

心の雑草抜きましよう

『薬王菩薩本事品第二十三』

仏の教えは根気です

知識まめ仏教

変化(へんげ)

へんかと読むと別の状態・性質に変わることの意味し、へんげと読めば妖怪変化などと、妖気漂う意味合いが強くなる。もとはサンスクリット語のニルマーナ。万物の変わること、本来の姿を隠して仮に現れることをいう。

法華経法師品の中に「もし悪刀杖および瓦石を加えんと欲せば即ち変化の人をつかわしてこれがために衛護となさん」という一文がある。へんげと読むが、ここでは仏や菩薩が私たち衆生を救うために姿を様々に変えて現れる「化身」のことを示している。

私たちは日々刻々と変化している。身体は老いていくが、心は老化ではなく若返りの方向に変化することも可能である。また一心に念じ努力するならば、仏祖の変化の使いに助けられることを信じて初心を貫きたい。